

大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

展観のご案内 2020.4月 → 2021.4月

※展観予定は都合により変更する場合があります。

2020. 4.10(金)～5.17(日)

大和文華館開館60周年記念 コレクションの歩み展Ⅰ

60年前の「開館記念特別展」を再現します！ 国宝4件・重要文化財17件が一堂に展示され、コレクションの名品48件が勢揃いします。



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵断簡 小大君像(部分)

2020. 5.22(金)～7.5(日)

大和文華館開館60周年記念 コレクションの歩み展Ⅱ

開館後に蒐集したコレクションから代表的作品を展示します。研究の成果を反映しつつ、一つ一つ積み上げていったコレクションの歴史をご覧ください。



重要美術品 木造女神像

2020. 7.10(金)～8.16(日)

大和文華館の仏教美術 — 祈りの美と形 —

愛らしい金銅仏、煌びやかな高麗仏画、荘厳な宮曼荼羅など、当館が誇る観賞性の高い仏教美術コレクションの数々をお楽しみください。



楊柳観音図(部分)

2020. 8.21(金)～10.4(日)

鏡中之美 — 鏡が映しだすもの —

中国・日本・朝鮮半島で作られた鏡や描かれた鏡、鏡を納める漆箱から、仏具や辟邪として用いられた鏡の信仰や、人々の様々な想いをひもときます。



重要美術品 銅製貼銀鍍金双鳳翼文八棱鏡

2020. 10.10(土)～11.15(日)

すみ 墨の天地—中国 安徽地方の美術—

文房四宝の名産地であり、山紫水明の地としても古くから知られる、中国の安徽地方。当地で生まれた絵画と版画を中心にその魅力にせまる展覧会です。



山水図冊(第五図・部分) 方士庶筆

2020. 11.20(金)～12.25(金)

文字の魅力・ 書的美

文字の魅力と書的美しさを伝える古筆や書蹟、書状、文書を展示します。また、文字と絵が麗しいハーモニーを奏する絵画作品や工芸作品にも注目します。



新古今集和歌色紙 本阿弥光悦筆

2021. 1.6(水)～2.14(日)

大人の嗜み 立花・鉄砲・古画鑑賞

花を愛で、砲術を修め、古画を愉しむ。江戸時代の大人の趣味と教養の世界をご案内します。1年の計は元旦にあり。新しいことを始めてみませんか。



宗清立花伝書(部分)

2021. 2.19(金)～4.4(日)

中国青花と染付磁器 — 京都の鹿背山焼 —

白地に青い文様が鮮やかな中国の青花磁器は、世界で愛好され、写されました。京都府木津川市の鹿背山焼など、青花の日本における受容と展開を探ります。



染付花鳥文水指 中川利三郎作

当館について

昭和21年、当時の近鉄社長種田虎雄氏を発起人として発足した財団法人大和文華館。初代館長の矢代幸雄氏が10年以上かけて、日本、東洋の価値ある美術品を収集、貴重なコレクションを所蔵するに至ります。昭和35年10月、近鉄創立50周年記念事業の一つとして、当時の社長佐伯勇氏の尽力により奈良市学園南に美術館を開館。日本芸術院会員吉田五十八氏設計の本館は、海鼠壁をイメージした外壁や数寄屋風を取り入れた美しい日本様式建築で、周りに

広がる自然苑「文華苑」の風景に見事に調和しています。昭和60年には美術研究所を併設、辰野金吾設計による奈良ホテル旧ラウンジ(明治42年建築)が移築されて文華ホールと名付けられました。現在、所蔵品は2,000件を超え、国宝4件、重要文化財31件を含みます。また、故中村直勝博士蒐集古文書(双柏文庫)664件、近藤家旧蔵富岡鉄斎書画145件、鈴鹿文庫(和書)6,162冊があります。

夢も現も、墨より生まれる すみ 山水今安流望

駕飛龍兮北征 遭吾道洞庭兮薛
涔陽兮極浦 橫大江兮揚靈揚靈
橫流涕兮潺湲 隱思君兮徘徊 桂
陽兮水中 舉芙蓉兮水木兮不同

2020年

10.10土 — 11.15日

会期中展示替あり

※展示替は、前期・後期と
別日程の作品もあります。

【前期】10月10日(土)～10月25日(日) 【後期】10月27日(火)～11月15日(日)

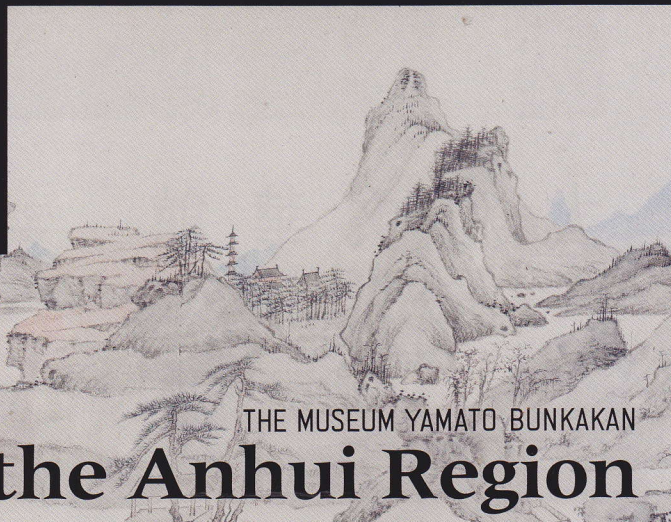
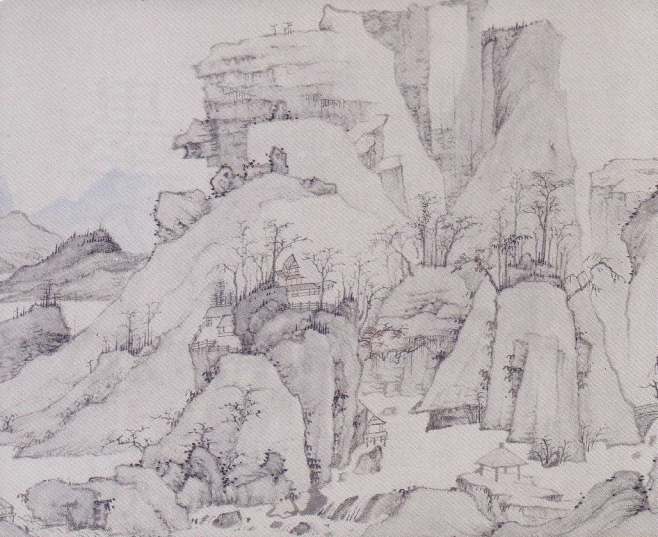
休館日 毎週月曜日 開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)

入館料 一般950円/高校・大学生730円/小学・中学生 無料

※20名以上の団体は相当料金の割引で引率者1名無料 ※障がい者手帳をお持ちの方と同伴者1名2割引

すみ

特別展 墨の天地



— 中国 安徽地方の美術 —

主催 大和文華館 共催 毎日新聞社

◆日曜美術講座◆

10月25日(日)午後2時・講堂「中国 安徽地方の美術の魅力」当館学芸員 都甲さやか

◆スライドによる展覧会解説◆

毎週土曜日午後2時・講堂 当館学芸部による

大和文華館 【奈良・学園前】

側桂權兮蘭世 斷氷兮積雪 采薜
今怨長期不信兮告余以不閒 鼂
鳥次兮屋上水周兮堂下 捐余玦
州兮杜若 將以遺兮下女 誓不可

上下段

江山無尽圖卷(部分)

漸江筆

清順治18年(1661)

泉屋博古館藏

(前期展示)

中2段

湘君・湘夫人圖

(離騷図より部分)

蕭雲從原圖

清順治22年(1645)刊

清江先生詩集 鐵齋美術館藏

(後期展示)

Special Exhibition Paintings and Prints of the Anhui Region THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

墨の天地

— 中国 安徽地方の美術

中国の江南に位置する安徽地方は、天下第一の奇山といわれる名勝・黄山を有する山紫水明の地として、また文房四宝(墨・筆・硯・紙)の名産地として古くから知られてきました。

明末清初(16世紀末～18世紀初)には、江南の成熟した文人文化、徽州商人の活躍による文物の流入を受けて、独特な芸術様式がこの地で発展します。絵画においては、墨色を活かした枯淡な画風の安徽派(新安派)が成立します。また安徽の刻工による精緻な版画芸術は、広く東アジアで人気を博しました。

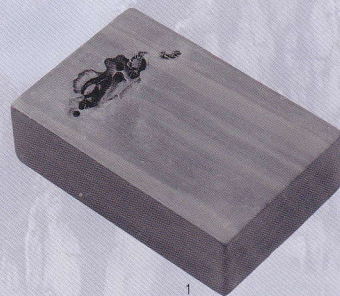
本展は、15世紀～20世紀初頭の絵画と版画78件(うち重要文化財4件、重要美術品3件)を通して、安徽地方の美術の魅力をご紹介します。日本初の展覧会です。墨より生まれる清らかな山水世界、華麗な版画芸術などをお楽しみください。

The Anhui region of China has the beautiful and picturesque scenery of Mt. Huang, and it has been known since ancient times for the production of stationary items like ink and ink-stones. This exhibition will center on the Ming and Qing Dynasties and introduce paintings, prints, and craft works that were made in the Anhui region.

第一章

安徽の美術をはぐくむ土壌

古くから文人達に愛された安徽産の文房具(硯墨)、15世紀～17世紀の江南の文人画など、安徽の美術を育んだものを紹介します。



第二章

透明なる山水

清初に、安徽独自の絵画様式が成立します。「玻璃山水」(ガラスのような山水)と呼ばれた、透明感のある静謐な山水画をご堪能ください。



第三章

徽派版画の精華

明末清初の江南では、経済発展を受けて出版ブームがおこります。当時の書籍を彩った、安徽を始めとする地域で生まれた美麗な挿絵版画の数々をご覧ください。



第四章

憧憬の黄山

安徽の画家たちの創作の源であり、内外の文人墨客を魅了してきた名勝・黄山を描く作品を展示します。



- 1 歙州 待潮硯 明時代
- 2 唐墨 百駝 程君房製 明時代
- 3 文徵明 墨竹圖 墨竹圖 唐景鳳筆 明時代
- 4 大和文華館蔵 (前期展示)
- 5 重校北西廂記 明方唐26年(1609)刊
- 6 山水圖冊(第五圖) 方士庶筆 清時代
- 7 重要文化財 黄山図巻 清康熙38年(1699)



大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

(交通) 近鉄奈良線学園前駅下車、南出口より徒歩約7分、無料駐車場あり

T631-0034 奈良市学園南1-11-6

TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929

大和文華館

検索



@yamatobunkakan

